

## 令和2年度防府市総合教育会議議事録

1 開催日時 令和2年12月22日(火曜日) 午後3時

2 開催場所 防府市役所1号館3階第1会議室

### 3 出席者

防府市長 池田 豊  
防府市教育委員会  
教育長 江山 稔  
委員 小松 宗介  
委員 村田 敦  
委員 田村 純子  
委員 温水 祥代

### 4 会議に参加した者

教育総務課長 尾中 克則  
学校教育課長 山本 純也  
学校教育課係長 福永 吏

### 5 会議に従事した職員

教育部長 能野 英人  
教育部次長 森川 智子  
教育総務課長補佐 磯邊 陽二

---

午後3時開会

○教育部長（能野英人） お待たせいたしました。

ただいまから、令和2年度防府市総合教育会議を開催いたします。

初めに、防府市長、池田豊が御挨拶を申し上げます。

○市長（池田 豊） 平素から、教育委員の皆様方には、防府市の教育行政に多大なる御貢献賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。

御案内のとおり、今年はコロナということで、小学生、中学生の生徒についても、学校が休業になったり、また、夏休みの登校を余儀なくされたということで大変な1年だったと思います。一方で、エアコンやパソコンの整備など、講じてきた施策が少しは役に立ったかなと思っております。

そうした中で、一昨日、御覧のとおり、防府読売マラソンを開催いたしまして、IPCの道下選手が2時間54分13秒という世界記録を達成されました。

それもすごかったのですが、昨日、大道中学校へ行ってトークショーがあって、道下選手が、私ならできるという思いでやっていると。そして、成功体験をして、達成感を味わってくださいと。成功体験をして達成感を味わうためには、きついこともあると思うのですが、そこを乗り越えてほしいということをおっしゃって、私として、昨日、大変うれしく思ったところです。

私は、市長になって、申し上げたように、教育というものにすごく関心を持っております。この江山教育長につきましても、私は市長になる前から、教育長は江山さんにとおっしゃって、今、教育長をしていただいております。

これまで、本市では、教育振興基本計画とスポーツ推進計画、この2つをもって防府市の教育大綱としていましたけれども、やはり防府市の教育大綱は教育大綱一本でやってくれと、

江山教育というのをしっかり確立してほしいということで教育長に申し上げまして、新たに、この防府市の教育大綱という形で一本立ちさせました。片手間ではなくて、本気で取り組むんだということを示す意味でございます。

今日は、タブレットの端末につかまして、11月に配備しまして、既に中学校3年、小学校6年で授業始まっていますので、そのことも御報告させていただきながら進めていきたいと思っています。私自身も、ICT教育と言いながら詳しいことが分かりませんが、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

本日は限られた時間でございますけれども、防府市の教育についての忌憚のない御意見を賜ればと思います。

どうかよろしく願いいたします。

○教育部長（能野英人） ありがとうございます。

それでは、早速ではございますが、議事に入ります。

議長につきましては、防府市総合教育会議設置要綱に基づき、市長をお願いいたします。よろしく願いいたします。

○市長（池田 豊） それでは、早速ですが議事に入らせていただきます。「防府市の教育大綱について」及び「防府市のICT教育について」を議題とさせていただきます。

事務局から説明をお願いしたいと思います。

○教育総務課長（尾中克則） 教育総務課でございます。

では、まず議案の説明をいたします。

なお、議題の1番と2番につきましては、特に、議案の2は、議題の1の一部とも同じになりますので、一括をして御説明を申し上げます。

では、私からは、教育大綱についての説明を申し上げます。

資料としまして、A3横の大綱概要というものと、それからホチキス留めの大綱（案）をお配りさせていただいております。ホチキス留めの大綱（案）を御覧ください。では、その1ページをお願いいたします。

まず、策定の趣旨につきまして、教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づきまして作成をするものでございまして、市長と教育委員で構成をするこの総合教育会議において協議の上、本市の取り組むべき教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の基本方針を定めることとなっております。

現在、教育大綱は、第1次の教育振興基本計画と、それから、スポーツ推進計画を当てることといたしておりますけれども、今回、令和3年度から、本市最上位計画でございます総合計画がスタートしますこの機会に、計画とは別に、新たに教育大綱を定めることとしたものでございます。

1ページの下の方の2番、計画期間につきまして、総合計画と合わせまして、令和7年までの5年間といたしております。

2ページをお願いいたします。

基本方針として、激しい社会の変化を柔軟に受け入れ、夢と希望を持って生きること、そういう中で、「教育のまち日本一」を目指すため、今後、6つの柱に取りまとめた施策を展開することを掲げ、また、特にデジタル社会を見据えた取組を加速化させることを強調いたしております。

では、3ページ以降、施策の6つの柱について御説明を申し上げます。

まず、1つ目は、つながる・広がる・深まる「防府スタイル」の学びの推進です。

デジタル社会の対応を防府スタイルの下、推進していくことをここでお示しをいたしております。内容につきましては、後ほどICT教育の推進について詳しく説明を申し上げます。

では、次のページをお願いいたします。

施策の柱の2番、地域の資源を活かした教育の推進でございます。

地域の子供は地域で育てるを具現化すべく、コミュニティ・スクールを基盤に地域の資源を活かした教育の推進についてこちらでお示ししております。

主な取組といたしましては、コミュニティ・スクールの活性化、ほうふみらい塾の創設、

子供たちの様々な活動を発揮、発表する場の創設など、計画をいたしております。

続きまして、5ページ、施策の3つ目の柱、知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進についてです。

豊かな人間性、確かな学力、健康・体力を育む教育活動について触れております。

主な取組といたしまして、一番上、主体的・対話的で深い学びの実現、それから、3番目の丸、いじめ等問題行動への対応、一番下の丸になりますけれども、幼児通級指導教室の充実などについて取り組んでまいります。

次のページ、6ページをお願いいたします。

施策の柱の4番目は、安心・安全で、質の高い教育環境づくりです。

施設の整備や等しく教育を受けるための経済的な支援など、環境の整備に努めてまいります。

主な取組といたしましては、一番上の丸ですが、老朽化対策などを中心とした施設整備、それから、地域・家庭と連携した学校安全体制の整備、一番下の丸ですが、奨学金を活用した修学支援などに取り組んでまいります。

続きまして、7ページ、施策の柱5つ目は、生涯学習についてで、生涯を通じた学びの推進についてです。人生100年時代を豊かに生きる生涯学習の推進と、文化・スポーツの推進について、こちらで触れております。

主な取組といたしましては、生涯学習活動の充実、それから、公民館の建替えや、機能強化、次のページに、文化・スポーツ関連を掲載していますけれども、スポーツ活動への参加促進、人材育成に取り組んでまいります。

最後、9ページです。文化財の保護・継承の推進について。防府の持つ豊かな文化・伝統を引き継ぎ、豊かな心を育むこと、そして、その資源となります文化財の保護・活用を進めることを記載しております。

取組としまして、文化財の保護・活用はもちろんのこと、無形民俗文化財の継承にも取り組んでまいります。

大綱についての説明は以上でございます。

○学校教育課長（山本純也） 私から、議題2の防府市のICT教育について御説明をさせていただきます。

お手元の資料、あるいは画面を見ていただきながら、御説明をお聞きください。

この1枚目のシートには、桑山中学校の生徒がタブレット端末を用いて学習している様子を載せさせていただきました。タブレット端末を使うことによって、より学習が活性化することが大事だと考えております。具体的には、今からその内容をお話しさせていただきます。

2枚目のシートにありますように、GIGAスクール構想をいち早く実現するために、防府市では、令和元年度補正予算、令和2年度当初予算で、他市町に先駆けて、1人1台タブレット端末の配備を決定しております。

タブレット端末については、平成27年度からモデル校を中心に研究を続けてきておりますが、本市ではiPadを使用しております。今、11月末に、小学校6年生、中学校3年生に、先駆けてタブレット端末を配備しております。この後、ほかの学年にもタブレット端末を今年度中にしっかり配備してまいります計画でございます。

3枚目のシートには、先ほど教育大綱にも載せておりましたが、つながる・広がる・深まるという防府スタイルの学びを提示しております。第5次防府市総合計画重点プロジェクトにも掲載させていただいております。

1人1台端末、タブレット端末の配備によって、先ほど申し上げましたが、学習が活性化していくということが主たる目的でございます。具体的には、今から詳しく述べていきますが、ICT環境の充実というところ、ハード面が、今しっかり下支えしていて、防府市ではそれを先駆けて取り組んでいるところで、これから、このシートの上の部分をもっと活性化して、最終的には子供たち、未来の姿へとつなげていきたいと考えております。

では、実際に、具体的にどのような事業を行っていくかという例でございますが、4枚目のシート、タブレット端末の中のアプリとして、写真・動画を撮れるアプリがございます。

これは、スマートフォンなどでもあるのですが、実際には、体育や音楽あるいは英語の学習などで、子供たちがいろんな動きや発音をしたり話したりするのを録画したり、撮影して、自己評価をして、さらに改善していくという流れのときに使用します。

それから、こちらの日頃、検索機能ということで、スマートフォンでも使われていると思いますが、こういう機能も付いておりますので、辞書の代わり、あるいは、資料の代わりとして授業中興味を持ったこと、疑問に思ったことをその場で検索できるということでございます。

続きまして、5枚目のシート、プレゼンテーション作成で、Keynote（キーノート）のというアプリが入っております。これは、教科で調べたこと、あるいは、記録や写真、アニメーションを交えて発表するのに優れたアプリでございます。

それから、動画の編集アプリとして、iMovie（アイムービー）というのが入っております。こちらは、実際に動画を編集する機能でございます。子供たちが動画撮影したものに文字を入れたりしながら、効果的に学校紹介や生徒会活動に活用することが可能なアプリでございます。

続きまして、6枚目のシート、具体的な事業展開例3として、ロイロノートと学習ドリル教材をお示ししております。こちらにつきましては、今から、実際に、福永係長から具体的なことを説明してもらいます。

○学校教育課係長（福永 吏） それでは、タブレットにはたくさんの、先ほど御紹介したようなアプリケーションが入っておりますが、もともと入っているものに加えて、防府市ではロイロノートという授業支援ツールと学習ドリル教材を今年度導入しておりますので、特に、これについて御説明を申し上げます。（7枚目のシート上で実演）

これはロイロノートというアプリの画面ですが、基本的には、今、画面に表示されているように、写真や文字等を使ったカードを作成し、それを皆さんで共有することで意見交換、対話等に広がるというアプリでございます。

ロイロノートの利点としましては、いろんな資料であるとか表現方法がデジタル化されることで、今までの紙媒体、手書きのものに加えて、表現方法が非常に広がる、また、ペーパーレスや迅速な資料配付等につながるということです。

また、思考の可視化、通常の発表や話し合いに加えて、このデジタルを使うことで思考がより可視化され、また、対話が活性化されるというようなメリットがございます。

例えば授業例としてはいろんなものが考えられるのですが、これはデジタル化のメリットとして、国語の時間に俳句をつくらうというような授業があるとして、このように写真を先生が子供に送って、では、この写真を見て1句つくってみようかというようなこともできます。生徒が気になった写真を自分で撮ってきて、そこに俳句を書き込んでいく、これも、ペンのツールを使えば、手書き、もしくはキーボード、例えば「秋空や」とか、こういうふうに直接画面に書き込むことができますので、これ自体が作品にもなってきます。ほかにも理科、生活科のように、身近な植物、自然等、写真を撮ってそれを集めてきて、また、それを調べるというような学習活動にもつながってまいります。

これは、持ち出せる、持ち歩けるというメリットがございますので、例えば防府天満宮に社会見学に行ったというときに、そこで子供たちが自由に写真を撮ったりして、それをまた発表しながら表現力を高めていくということが出来ます。

例えば、このように防府天満宮散策、このような写真を見つけて、子供たちが画面に貼り付けて、ここに紹介文を書き込んで、こんなものがありましたというような発表もできますし、こういったのを見つけて、今まではいろんな説明文を一々手書きで写してきていたようなものを写真に撮って貼り付ければ、非常に効率よく紹介ができるというものです。

もう一つ、カメラの良さとしては、動画が撮れますので、写真だけでなく簡単に手で持ってこのように動画を撮って、より豊かな表現で今の発表ができるということです。これは、今現在の防府天満宮でございます。

今まで、子供たちが資料を紙ベースでまとめておりましたが、こういったデジタルを活用したまとめというのも非常に有効かと思えます。

本市では、セルラー方式という通信方式を採用しておりますので、今、自分の位置情報と

いうのも正確に分かります。このような一般的な地図機能を使えば自分の場所も分かりますし、校外学習等の際にルート検索等も簡単にできます。また、自分の位置を送ることによって、安否確認やチェックポイントの代わりということにも活用できます。

QRコードを読み取るというのが、今、主流になってきておりますので、その現地で見られない資料といったものも、その場で撮影しながら、そこで、より学習が深まっていくのではないかと考えます。

続きまして、対話の画面です。シンキングツールというのがいろんな教科でも採用されています。いろんな図にして、いろんな思考を深めていくというものです。これがクラゲ図というもので、例えば、古代日本のキーパーソンはということで、各自が自分で調べていくわけです。それについて、いろんな情報をカードでつくってまとめて、思考を可視化していくというものです。

これは、実際に小学校の今現在採用している教科書にも、このシンキングツールを使った学習というのは掲載されておりますので、このように使うことはできます。

こういった、今、各自の学習でありましたが、このロイロノートは一つのクラスが全員つながっております。このつながっていることで、いろんな学習が深まっていくわけですが、この提出箱に送るというところに送りますと、いろんなつくったカード、友だち同士に送ったり、教師に送って教師が一括してそれを把握したりすることができます。

今までであれば、手を挙げて指名されて発表した子だけの意見で対話が進んでおりましたが、一つの正解を求める授業であれば、それでもいいかと思いますが、今は多様な意見を拾い上げて、そこでまた対話を深めていくということでございますので、それをするためには、このロイロノートというのは非常に有効でございます。

例えば、先ほどの俳句のシーンですが、いろんな俳句をいろんな写真を基に子供たちがつくったものが、このように提出箱というのに、どんどん提出されていきます。これは教師のほうですね。大画面に映して表示したり、このように、こんな作品もあるよねと言って、これはどういうつもりで書いたのというようなことを聞きながら授業は進んでいくわけですが。

当然、このように2つを比較して、これとこれの違いはというような授業もできますし、このようなペンのツールを使えば、こうやってこう書きながら、これはすぐ消えるのですが、指示しながら授業を進めることができます。

画面が少し小さいなという場合には、この画面を生徒のタブレット等に配信することができますので、手元で確認しながら授業ができるということです。

子供の意見をこのようにカードという形で集約することができますが、もう一つ、アンケート機能や小テストの機能がございます。

授業の最後に、今日の授業を振り返ってみようということで簡単なアンケートを作成します。

例えば、このアンケートでいきますと、今日の社会科の振り返りはということでございますので、このように簡単にボタンをタップすればできるようなものだとか、自由記述ができるようなものがございます。

これは、子供たちがボタンを押した瞬間に全部この結果がパッとこのように出るわけで、教師のほうは、今日の授業で子供たちはこういうところがまだ分かっていないんだとか、こういうところの、こういういろんな意見が出るなということで、また、授業を改善していく、これが紙ベースでやるよりも、より早くできるということです。

続きまして、学習ドリル教材です。小学校と中学校、それぞれ別の業者を入れておりますが、今、小学校で御説明します。

各自それぞれに個人のアカウントというのを割り当てられていまして、個人ごとにこのページが作成されます。小学校であれば、国語、算数、社会、理科の4教科の学習が小学校1年生から中学校3年生までの問題が全て入っております。

例えば国語の漢字の書き取りのようなものですが、例えば書き順を確認とやると、実際、私がやってみた映像なんですけども、このように、ガイドがこのように書くんだよということをもとに動画を教えてくれます。

続きまして、右下に、実際に指でこうやってなぞって書いていく。答え合わせをすると、

答えが、あそこは突き出ているから駄目だよということまで指摘してくれるということなのです。

これは、算数の面積を求める問題、算数ですので、数字を打ち込んでいたりすることもできますし、中学校版では、ノートで手書きで計算をすることもできます。正解であれば、ピンポンとってポイントがたまっていく、それがまた、子供たちの楽しみになるかなと思います。

これは、子供たちが、いつ、どんな学習をしたのか、どんな結果だったのかが全て記録されていくわけでございます。もちろん教師もクラス全員の生徒の学習状況を端末上から確認できますので、子供たち一人一人の学習状況を把握しながら、また、個別に合わせた問題を出しながら、個別最適化された学習というのを進めていくというのがこのデジタルでできることかと思えます。

ロイロノートと学習ドリル教材の紹介については以上でございます。

○学校教育課長（山本純也） 福永係長は、かなりこのロイロノートあるいは学習ドリル教材を、自分でもこうやって説明できるぐらい取り組んでいますので、これぐらいできますが、全ての先生がこれを使いこなせるようにしていかなければならないというところが、この教育委員会としては一番の課題であるし、ここを早急にやっていかななくてはいけないと考えております。

8枚目のシートをご覧ください。このグラフの見方ですが、縦軸が全ての教職員100%、横軸が令和3年度から令和7年度の計画として御覧ください。

最初の令和3年度初期の段階で、この縦軸のところにチェックが入っておりますが、これらの4つについては、どの先生も用意ドンで始まったときに使える状態にしておくという意味でございます。

例えば大型提示装置の提示だとか、今、福永係長がやったロイロノートで授業をしっかりと展開していけるようにするとかいう内容がこちらに書いてございます。

それから、今後、それを活用していく中で、より効果的なICT機器の活用事例についての開発や提案を進めていきたい、これをどんどん先進的に防府市では取り組んでいきたいと考えております。

9枚目のシートをご覧ください。具体的にどのようにそれを底上げしていくか、あるいは力をつけていくかということですが、そのための要となるのがTeam DASHでございます。このTeam DASHのメンバーですが、(10名目のシート)考え方としては、先ほども少し説明がありましたが、デジタル機器を活用した先進的な授業の研究を行う教員や専門家などで構成するプロジェクトチーム、頭文字を取ってDASHというふうにしております。

構成メンバーとしては、ICTの専門家としてリーダーを1名、推進員を4名ほど配置して、教職員の代表として各学校の小中校長、代表1名ずつ、それから教員1名ずつの計4名、それから、教育委員会から3名、合わせると12名の中心的なメンバーでこのDASHチームをどんどん引っ張っていきたいというふうに考えています。プラス、アドバイザーとして大学の教授や山口総合教育支援センターの専門員なども関わっていただきながら、さらに加速させていきたいと考えています。

11枚目のシートが具体的な取組になります。研修の進め方として3つのタイプを考えております。今までやっておりますのが、この左側、集合型というパターンでございます。これは、各校の在籍の先生に来ていただいて研修をするパターン、それを復伝していただく。これはよくあるパターンです。

サテライト型というのは、DASHチームのメンバーがそれぞれの学校のニーズに合わせて訪問して、そこで指導すると、あるいは、研修していくというようなパターン。

これから力を入れていきたいのが、このアクセス型というパターンで、このアクセス型は、DASHチームがいろいろなところで訪問して、よりよいモデルや授業研究をしていく中で、効果的な活用例をサーバーにアップロードして、どこからでも、職場や自宅からでもパスワード管理をしっかりとしながら、それらを見ることが出来ます。そして、そこで自ら学んで教職員がスキルアップを図っていくというアクセス型をしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

12枚目のシートをご覧ください。このように進めて行き、最終的には、教育がどのように変わるかというところが大事ですが、言葉として出ている個別最適化された学びというキーワードがあります。それを通して豊かな創造性を育み、子供たちの可能性を広げる教育でございませう。

下にSDGsも示しておりますが、17の目標というのが、今、世界的に言われている中で、子供たちがどのように自分事として関わりながら、自分の可能性を広げていくか、そういう活用力というものを広げていくことが最終的なゴールであります。

AIを通して、個別の課題をそれぞれがクリアするというにとどまらず、一人一人の興味関心が広がって、そして、自分の可能性を広げていくような学びを展開していきたいと教育委員会では考えております。どうもありがとうございました。

○市長（池田 豊） どうもありがとうございました。

ただいま防府市教育大綱に関する事ということで課長からの説明の後、ICT教育ということで、映像で御説明したところでございませう。

また、特にタブレットのICTというところはスタートしたばかりで、はっきり申し上げまして、これからどうなるのかなという試行錯誤の面もございませうけれども、他市より進んでおりますので、これはしっかりと取り組んで、防府市の教育をより良い方向に変えていきたいと思っております。

それでは、今のことでいろんな御意見があると思ひます。

今、両方説明させていただきましたので、もう両方とも一緒に御意見があれば、忌憚のない意見を伺わせていただければと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

何かありますでしょうか。田村委員、何かありませんか。

○委員（田村純子） GIGAスクール構想は先新的で大きく期待をしているところですが、チョーク1個で勝負をしていた教員もまだかなりいると思ひますが、そういった先生が頑張るぞという気になるように御支援を頂きたいと思ひしているところですが、教員の環境はどうでしょうか。

○教育長（江山 稔） 今、さっき説明があったとおり小6と中3に配備しているんですが、学校によっては「まだか、まだか」というところもありますので、興味関心はあるようです。

あとは、それを教員が、教育につなげていくと、とにかくいい使い方を、広げるということでやっていくということで、夕方集まってもらって、使い方については、集合型で研修しています。今から、説明のあったサテライト型、アクセス型の研修ができるように、特に年齢の高い先生方も取り組めるように進めていきたいと思ひています。

○委員（田村純子） そういう先生は、子供のコミュニケーション能力をアップさせる力や技量を持っているので、デジタルさえ使えれば両輪がそろうんですね。そこをうまく使っていたきたいと思ひます。

以上です。お願ひします。

○市長（池田 豊） 今の御意見ですけど、やはり黒板教育の良さを、そのデジタルというのはつなげていくことが、また、ほかの国に勝てる日本教育の独自の事だと思ひます。やはりベテランの先生方は、高い能力がありますので、それを今度デジタルにどうやって活かすのかというのが課題だと思ひていますが、それができれば素晴らしい事だと思ひます。

小松委員。

○委員（小松宗介） 今までの教育委員会の方だとか、学校の教職員の方、かなり厳しい環境の中にいらっしゃると思ひるので、その中において、これを取り入れていくという段階で、厳し過ぎて、習うべきものが多過ぎて、しかも、それを地域と学校と家庭を結びつけていく、これができなければ、最終的にはうまく機能していかないと思ひます。

タブレット端末が、子供だけのものなのか、それとも、各家庭にも一応、子供がいる家庭には配布していくのかとか、どこまで広げて、この防府のICTの教育の水準を高めていくのかということを考えていくと、確かにハードの部分では一気に整備されますけれども、先ほど言ったように、学校と家庭はどうなのかとか、地域との関わりは、どうするのか、要するに公民館とかですね、そういうところはどようするのかとか、うまくいきそう、いかないのではないかとということで、この前、教育長とも話をいたしました。

現実には、今はこうやって入れてきたら、きっと、こういうふうなことがよくなりますよとか、こういうふうに変わっていくというメリットはありますけど、では、これに対して、本当にデメリットゼロなのかと。もっと、デメリットの部分も最初に潰しておくということが大事ではないかなと私は思います。

○市長（池田 豊） 先ほど、黒板教育をうまく活かさなくてはいけないという、課題の部分を上申したところですよ。

今、学校と家庭と地域、私も朝、子供たちを見送っていますけれども、地域ありきの教育なので、タブレットも、今は1人1台で、まずはハードを整備することが最低限やることとしてのスタートですけれども、その後というのは、やはり地域によって違っていいと思います。そして、防府の場合において、日本一と考えていますけれども、やはり、それは何かというと、学校運営協議会をもう少し実効的なものにして、地域の中でやっていくことが大切だと思えます。

そういう面で、今回、良いきっかけになると思えます。やはりベテランの先生の教えるノウハウ、これが活かせるようにしないといけないし、単なるハード整備に終わってはいけないので、地域と地元と一体となってやる教育だということで、うまくつなげていけたらとは思っています。

まずは、スタートをしっかりして、DASHというチームもありますので、防府市の教員ならできるという思いで教育委員会には取り組んでいただきたいと思えます。大変だけど、乗り越えたときに、その先がまたあると思うので、そのときに達成感というか、教職員自身も成功体験をしていただきたいなと思えます。

○委員（温水祥代） 私は、保護者の目線の意見になると思えますけれども、先生方がすごく大変なことも分かるのですけれども、ロイロノートというのは、自分の意見を人前でなかなか言えない子供にとっては、自分の意見が言いやすくなるということですよ。ただ、人前で話すというか、自分から積極的に手を挙げて発言するというのもすごく大切なことだと思えますので、そういう機会も大切にしてほしいなと思えました。

それと、学習ドリル教材というのは、ゲーム感覚でできて、子供たちもすごく喜んでやるのではないかと感じましたが、ただ一つ心配なのは、タブレットを自宅に持って帰ったときに、勝手にダウンロードしたりとか、あまりふさわしくない動画を見たりしないのかなというのが心配だなと感じました。

○市長（池田 豊） ありがとうございます。ロイロノートは、先ほど説明あったメリットは、教える教員の立場から見たら、子供がどのくらい理解できているのか把握できることだと思えます。

温水委員がおっしゃるように、一方で、人前で手を挙げるというようにするのも一つの教育だと思えますので、それも大きな課題ではないかと思えます。

2点目のタブレットを持って帰るといった話がありましたけれども、これは、防府市の防災公園、メバル公園と一緒に思えます。メバル公園は、遊びもできる防災公園です。今、遊びができるということで、まずは慣れ親しんでもらって、その上で、防災はどうなっているだろうかと考えてもらうことが大切だと思えます。

実際にタブレットの整備にあたっては、教育委員会と議論しました。自宅に持って帰ることができなければ意味がないという話もしました。持って帰っても変なことに使わないようにすることも教育の一つであると思えます。

ただ、使い方の問題も起きるかもしれませんけれども、そこをいかに乗り切るかが、また、授業ステップの課題ではないかと思えます。

今後、進めていく上で、課題はかなりあると思うので、それは、DASHのチームの中で多分検討しながらやってくださると思えます。

村田委員。

○委員（村田 敦） 今、個別最適化された教育、ICT環境というのは、要するに、それぞれの子供の能力に応じた学習ができるという意味だと思えます。当然、できない子とかいるわけですよ。なら、そういう人に対しては、それに合った教育を与えていかなければいけないが、テストの成績とか、そういうチェックは簡単ですけど、それを個別に教師がき

ちんきちんと対応、どこまでできるかということです。

だから、もう一步進んだ形でできるのだと思いますけれど、そういった、つまづいている子供を引き上げなければ、本当の意味での最適化された教育とはいえないように思うのですが、どうでしょうか。

○市長（池田 豊） 教育長、いかがですか。

○教育長（江山 稔） そこは、やはり個人的に手をかけてやるものはたくさんあると思います。そこは、授業でいう最低限必要な基礎・基本の部分だろうと思います。

それから、もう一つは、その個別最適化という中に、一人一人の興味関心に応じたということが大切で、計算苦手だけど虫がすごく好きだとか、魚がすごく好きだとか、そういった部分もこれだと無限に広がると思います。そういったところ、「できるできる」ではないですけど、できるところを伸ばしながらも、ここはやはり最低限やっとならないといけないところは、個別に最適化というよりも個別指導が必要になってくると思います。

○委員（村田 敦） そこは、創造性を育み、可能性を広げるというふうに進んでいくと思いますけれど、例えばAIがもっと発達してくれば、それぞれの子供が、何ができないから、この子にはこういう問題を与えようとか、こういう教育をしようということができると思いますが、今だと、やはり先生方が一人一人、仕組みを考えて、それぞれの子供に対応してはいけなくて、それも、結構大変かなと思います。

だから、本当の意味で、みんながきちっと一定のレベルに達するようにするというのは、すごく大変だろうと思います。

○教育長（江山 稔） 一つの水準というのがあるって、さっき言ったように、そこまでは確実に行く。そこからはもう自由にできるというぐらいが良いと思います。それは教職員も同じです。

○委員（小松宗介） 例えば、教職員のスキルアップはいつまでにどの程度まで上げていく。この学校では何名ぐらいの先生が他の先生方に教えることができるようにするとか、そういう計画というのは作ってあるのですか。

○学校教育課長（山本純也） これについては、具体的に、何年度に何%という数字は出していませんが、先ほど申しましたように、基本的に使えなくてはいけない機能というのがあります。ただロイノートが誰もが使えるところが令和3年度のスタートだと思っていますので、そこはもう、使える使えないではなくて使える。それから、そのほかにも大型提示装置できちっと提示できる、教員はそういうものだ、というところが最低限になろうかと思っています。

学習ドリル教材をしっかりと子供に与えられて、子供がやったことを把握できるとか、この辺もベーシックな部分はそろえていく。そこから先の活用方法などは、今からDASHチームを中心に、先生方にも多分いろいろ先進的な方はおられると思いますので、そういう方からのお声も聞いたり、取り集めてアクセス型で進めて行って、誰一人、教員も取り残すことなく、全ての教員をしっかりとタブレット端末に向かえるようにしたいと思います。

一方で、先ほど、話題になっております、チョークの学習、黒板の学習はしなくてもいいのかということ、そういうことは絶対思っていません。防府市では、それをしっかりやっていくということで、今までの教員が培ってきた技術、教育技術をベースに、これもしっかり引き継いだ上でということになります。

となると、先ほどから議論で、すごく大変じゃないかと、いや、それは、もちろん大変な時代になってくるのですが、これからの教育はそういう教育であるということ認識して、みんなに頑張っていただきたいと思います。

○委員（小松宗介） だけど、基本的に、電子黒板という形になっていくのではないですか。

○学校教育課長（山本純也） 大型提示装置の中で、タブレット端末に記入することによって提示できるということはやっていくのですが、タブレット端末の大型提示装置の課題は、消えるということです。黒板というのは、ある意味消えないので、消えないということは、学習の履歴が残りますし、子供たちが発言したことが残ります。これをどういうふうにミックスしていくかということなので、黒板自体がなくなるというのは、早急にはないと思いますし、これらを有効的に活用するのが、日本の教育だと思います。

- 委員（小松宗介） だけど、写真で写せるでしょう。
- 学校教育課長（山本純也） ええ。
- 委員（小松宗介） 写真に写せる。確実に残しているじゃないですか。
- 学校教育課長（山本純也） そうですね。めくっていけば残っていますが、黒板の良さというのは、学習がどのように展開していったかというのが残ることで。もちろん、スライドショーのように見せれば、今日の、最初の導入からどのようにやってきたかというのは、デジタル部分で分かる部分もありますが、それで分かる部分はしっかり活用していく。そのよさをどうやって取り入れていくかというのが大事だと思います。今までの日本の伝統的な教育を、その良さを教員は分かっていますから、これをどのようにミックスさせていくかということを防府市でぜひ先進的にやっていきたいと思っています。
- 委員（小松宗介） それと、防府では一斉に整備されますけど、そうでない地域から来られた先生は大変だと思います。なので、そういった計画というのは、やはり防府だったら、県も中心にしてどの程度のスキルアップを全体でやっていきたいと思いますというのを指示しておかないと、防府だけができたとしても、うまくいかないのではないかと思います。
- 教育長（江山 稔） 防府市では1年前から取り掛かっていましたが、今回、コロナが来たから、一気に全体的に整備が進んでいます。だから、一気にどの県も今、導入することと、勉強、教員その技術的なことと、それから環境のこと、Wi-Fi環境も作って、それをどの県もどの市も今やっているところです。
- 市長（池田 豊） 防府市は1年ほど余裕があって良かったのですが、遅れるとあせるとおもいます。ちょうど1年前、上京した時に、東京都の宮坂副知事と話をする中で、国がICT教育を推進しているということで、教育長を呼んで、これが防府の教育に必要なのか聞いたときに、教育長が必要だと言いました。必要であれば、同時に全員に導入しようと、学校ごとや、学年ごとではなくて同時に入れようと判断しました。
- 委員（小松宗介） あと、マイナンバーカードとは、どういうふうに関わり合っていくのですか。
- 学校教育課長（山本純也） そこまでは、私も不勉強で、それがどういうふうに教育に活かされるかということまでは、よく分かってない部分もあります。
- 市長（池田 豊） マイナンバーカードについては、防府市での普及率は24、25%です。国が令和4年までにほぼ行き渡らせると言っていますので、このたび、組織体制を強化しました。
- 委員（小松宗介） それで、また最初の話に戻りますけど、先生方の負担が本当に大きくなるのではないかと思います。本当に、地域との協力関係というのを強くしていかないと、うまく機能しないと思います。
- 市長（池田 豊） だから、子供が少なくなって、まさに、地域の子供は地域で育てるではないですけども、近所の子供は自分が育てるぐらいの気持ちでやっていかないといけないと思います。私も毎朝、2年半になりますけども、子供たちを百何人見送っていて、どんどん成長するのを見てうれしく思っています。学校の先生ばかりに押しつけるのではなくて、地域で育てていくことが豊かな学校生活にもつながると思います。
- 委員（小松宗介） 学校運営協議会でも、基本的には、協議会に出ている方全員にタブレットをお貸しするというのも考えていいと思います。
- 市長（池田 豊） そうですね。来年度、学校運営協議会での取組の強化をして、いろんな意見を言ってもらおうと思います。学校運営協議会は、ある程度定着したので、それが学校教育などに活かせるようにしていければいいと思います。
- 委員（村田 敦） 卒業のときには、その子の学習した記録のデータというのはもらえるのですか。
- 学校教育課係長（福永 吏） サーバにはずっと保存してありますので、卒業後も自分で自宅のパソコンからアクセスすれば、それを見ることができます。
- 市長（池田 豊） スタートしたら、想定外のことがたくさん起きると思っていますので、それを改善しながら、進めて行かなければいけないと思います。

その他何かございませんか。どうぞ。

- 委員（温水祥代） もし、タブレットが壊れたときはどうなりますか。水が掛かるなど。
- 教育長（江山 稔） これは、もう使い方が普通に使っている中でのことなら、教育委員会で交換や修理はできると思います。ただ、故意による場合は別になります。
- 市長（池田 豊） 教科書の無償貸与と同じだと思います。
- 教育長（江山 稔） 今の子どもたち、小学生、中学生も大人になったら、確実にこの機械を使う世界に入りますので、早い時期に慣れて、こういうふうに使ってはいけないということも含めて、始めから教えていくことは大切だと思います。
- 委員（村田 敦） 教科書もデジタルに変わっていくのでしょうか。
- 学校教育課長（山本純也） これは、今、国もそういう動きはありますが、まだ来年度からすぐという話ではありません。
- 委員（村田 敦） 国からは、使用する時間制限を撤廃してという形になってきて、今でも結構、近視の子供が増えてきていますが、そういった影響というのはどうでしょうか。
- 教育長（江山 稔） 今、タブレットだけではなくて、スマホを使っている人が、一気に目が悪くなるというのは聞きます。
- それから、子供たちが睡眠不足を起こしているというような弊害等もあるようです。
- デジタル教科書についても、早く始めている国が5年ぐらい使って、やはり紙に替えたという事例もあるようですし、紙のほうが集中する部分もあります。
- スタートなので、メリットをしっかりと伸ばして使いながら、先ほど出たチョークでの授業も含めて黒板を残したり、あるいは、紙での良さも一緒に進めていく必要があると思います。
- タブレットというのは文房具と言われています。だから、社会とか理科で図表が画面に出てきたり、理科の実験が動画で確認できたり、本当に役に立つものだと思います。
- 委員（田村純子） 中関小の保護者が、子供がタブレットを持って帰って、家族で感動したと、有り難いと言っておられたのですが、ノートがおそろかになるのではないかとということ、親は気にしておられまして、例えば、算数の筆算を書くのも、桁を間違えて書いたりすることが結構ありますよね。そういうことは、先ほど、福永係長の説明の中にありましたが、これまでノートで行ってきたことも、自動的にやってくれるのでしょうか。
- 学校教育課係長（福永 吏） 先ほどのドリルの話であれば、ノートに自分で書いて入力するというパターンになろうかと思います。
- 委員（田村純子） ノートは、必ず並行して使うということですね。
- 教育長（江山 稔） ノート指導はしっかりとやっていかないといけないと思います。だから、先ほど黒板のことが出ましたが、タブレットを使えば使うほど、ノートをどうやって、いつの時間に、どんなものを残していくかということが課題になってくると思います。
- 市長（池田 豊） ほかに何かございませんか。よろしいですか。
- 今日は、様々な意見を頂きましたが、本当に良い会議だなというようなことを思っております。
- 最初に申し上げましたが、本市の教育大綱ということで、新たに一本立ちさせました。それは、防府市は教育をしっかりと進めていくんだという意思表示とさせていただければと思っております。
- タブレットの話がありましたけど、今、教育は大きく変わろうとしております。そしてまた、部活動に携わる先生のこと、これから令和5年にかけてだんだんと変わっていくという、流れになっていますので、ある意味では教育の変革期だと思っております。
- そのときは、いつもピンチはチャンスだということで、こういうときだからこそ、義務教育に関しては、各自自治体、市町村で、能力とか力量が問われていると思っております。
- そのためには、やはり市長部局と教育委員会が一緒になって進んでいかないと出来ませんので、委員の皆様方と、また、様々な学校運営協議会等、今こそしっかりと意見を出していただいて、市民の皆様や地域と一緒に、防府の教育を良くしたいと思っております。どうか教育委員の皆様方、これからはお力添え賜りますように、よろしく申し上げます。
- それでは、事務局にお返しします。
- 教育総務課長（尾中克則） 教育大綱につきましては、本市の総合計画と非常に密接な関係

を持っております。総合計画に関しましては、来月の15日までの予定でパブリックコメントを実施しております。

パブコメが終了しましたら、3月議会に議案として上程をいたしまして、議決をいただいた後に正式にスタートするという流れになっています。したがって、教育大綱につきましても、総合計画と併せまして、令和3年度から、来年4月からのスタートということで、今後、準備を進めてまいりたいと考えています。

以上でございます。

○教育部長（能野英人） 大変長時間、熱のこもった御議論ありがとうございました。

先ほどから話が出ていますけど、「防府市教育委員会ならできる」と言い聞かせて頑張ってみる達成感を味わってまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

午後4時02分閉会